

地域包括ケアネットワーク No.16

地域包括ケアネットワークへの周知と参加

都窪医師会理事 赤 司 浩二郎

都窪医師会は、四つの地区（吉備、妹尾、茶屋町、早島）と、三つの行政（岡山市、倉敷市、早島町）で構成される総勢100人あまりの医師会です。

3年前より国の指導で始まった地域包括ケアネットワークも、徐々に認知されつつありますが、その実態となると、まだまだ医師会メンバー全員への周知には至らないのが現状です。

私自身も、前の介護保険担当理事を長くやっていましたが、昨年介護保険部会が地域包括ケアネットワーク部会に急に変更になり、よくわからないまま今に至ります。

私の開業する吉備地区では、二つの医大と、大きな総合病院がたくさんあり、救急患者の受け入れや、高齢者の急変への受け入れもスムーズに行われています。また介護施設もたくさんあることや、地域のケアマネジャーの働きもあり、在宅患者さんのケアもあまり不便を感じず、地域包括ケアネットワークの必要性についても、あまり気にすることなしに、日々の診療を行っているというのが実情です。

改めて都窪医師会の中での現状を見てみますと、一部は早島町で熱心な先生が中心となり、行政と連携を取り在宅医療連携拠点事業の申請をされ、早島町内の地域包括ケアネットワークの構築に取り組んでいます。また、国の指導する在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会へ、有志の先生方が参加され、少しずつですが取り組みがなされています。

しかし、日々診療に追われている先生方には、まだまだ地域包括ケアネットワークへの理解は乏しいものと思います。

先に申し上げた通り、この都窪医師会周辺の医療事情と介護事情は比較的良好で、日々の診療に支障はきたしていないものの、これから訪れる超高齢者社会に対する備えは、いずれ必要になると考えています。

今のうちに国の試案どおりにはいかなくとも、このネットワークへの理解と協力は必要になると考えられます。しかし、医師会員へ在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会への参加を呼びかけ、理解を深めてもらうことはなんとか可能ですが、早島町で行われている在宅医療連携拠点事業の申請実行となると、すぐに医師会全体に広げて参加することは、かなりハードルが高いと感じています。